



Topics 若年者向けタイムマネジメント研修について

多忙から多望へ！若手教員のシゴト革命

～ワークもライフもキャリアも充実させるタイムマネジメント術～

7月26日・27日に若年者向けタイムマネジメント研修を実施し、2日で合計48名の教職員の参加がありました。

「教員はこうあるべき」という思考の偏りをなくすとともに、新たな時間を生み出す方法を考え、その新たな時間で子どもと向き合う時間を確保したり豊かな私生活につなげたり、ワークもライフもキャリアも充実させることにより、人生をデザインし、教育の質を向上させることを目的とした研修でした。

研修では、グループに分かれて、

①現状を認識する

現在の1日・1週間の業務を書き出す

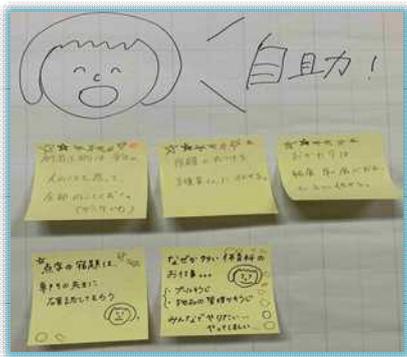
②知恵を出し合う

「工夫して、子どもの下校までに1人あたり通常よりも合計30分の自分の仕事ができる時間を作ってください」というテーマで個人で考えた後、グループで自助（個人裁量）・共助（学校裁量）・公助（教育委員会・国裁量）に分類する

③実行することを決める

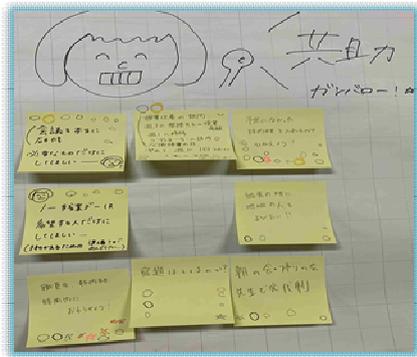
取り組むこと、1ヶ月後にはこうなっていたい、予想される困難と乗り越え方、小さなはじめの一歩を決める

という流れで時間予算ワークショップを行いました。ワークショップの一部を紹介します。



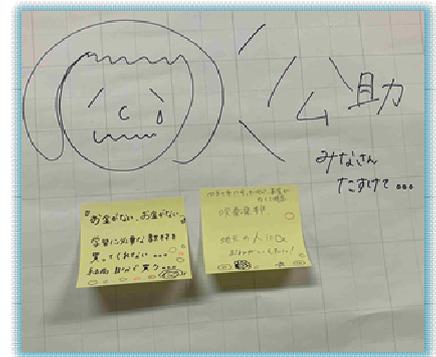
○自助

- ・ 掲示物は来年の人のことを考えて、すべて残しておく。
- ・ 宿題の丸付けは支援員さんに任せる。
- ・ おかわりは給食を早く食べ終わった子に任せる。
- ・ 点字の宿題は専門の先生に確認してもらう。
- ・ 業務が多い体育科の仕事は校内みんなでやる。



○共助

- ・ 会議・研修は本当に必要なものだけにする。時間内に終わらせる。
- ・ 学校訪問や研修、公開授業等は週に1日にする。
- ・ 予定になかった校内研修を入れるのは控える。
- ・ ノー残業デーは希望する人だけにする。
- ・ 給食のときに地域の方に入ってもらう。
- ・ 宿題は必要なのか。
- ・ 朝の会・帰りの会は先生で交代制にする。



○公助

- ・ 予算がなくて、学校に必要な教材を購入してもらえない。
- ・ 予算をつけてもらって吹奏楽部に地域の人に入ってほしい。

自助（個人裁量でできること）・共助（学校裁量でできること）が多い。
＝当事者意識が高く、他人事ではなく自分のこととして捉えているということ。

参加者から出たアイデア

- ・指導案はもっと簡単なものでよいのではないか。
- ・コロナ禍で取りやめになった行事が復活しているが、取りやめになったことでどんなデメリットがあったかを検討して復活を判断した方がよい。
- ・支援員や地域の方に教室の見回りや宿題の点検、配布物の準備などをしてもらえると助かる。
- ・ICTを活用して授業評価アンケートもデジタルで集計する。学級通信等も紙で印刷して配布するのでなくデジタル配信にすると負担が減る。
- ・会議などの資料はできる限りデータで配布する。
- ・教材を他の人と共有することにより教材を作る手間が省ける。教材作成もきれいに切りたいなどこだわりすぎない。支援員に頼めることは頼む。
- ・限られた予算の中で安価なものを購入しがちだが、加工速度が速いラミネーターを使うなど、別の視点を入れることにより働き方改革につながる。
- ・休日の部活動はできる範囲で外部指導員に依頼していく。



参加者の感想

- ・校長先生に「働き方を見直すいいきっかけになるから行っておいで」と背中を押されて参加した。自分のことも学校のことも大切にしたい時間の使い方を考えるという良い研修だった。
- ・業務の効率を上げたり、仕事の質を良くしたくて研修に参加した。タイムマネジメント術や他の学校の取組を聞いて、少し動くだけで働き方は変わると感じた。
- ・時間の使い方がうまくなくて帰る時間が遅くなったり、自分の時間がなかったり大変だったが、学校全体で取り組む決まりを共通認識することで業務が軽減できるのではないかと考えた。
- ・「職場にいる時間が長い」と学校でも言われており、自分でも改善する方法がないかと思い参加した。
タイムマネジメント術の部分でいろいろアイデアをもらったので、実践してみたい。



働き方改革担当から

- 若年者向けタイムマネジメント研修では、いろいろな校種の同年代の教職員が集まり意見を出し合っていました。意見を出しやすい雰囲気があり、若年者からは「こんなことができる」という前向きなアイデアがたくさん出されました。今回の研修がワークだけでなく、ライフもキャリアも充実させるためのヒントとなり、今後活躍する若年者が中心となって、各学校でも取り組んでいただければと思います。
教職員・福利課としても、今回の研修で公助についていただいたアイデアも参考にしながら働き方改革を推進していきます。
自助・共助については個人裁量・学校裁量で取り組めることです。ぜひ、学校でできることを少しずつでも実践してみてください。

●働き方改革につながる実践例やアイデア等を募集しています。右のQRコードより情報提供をお願いします。→ →

発行：高知県教育委員会事務局教職員・福利課

電話：088-821-4901 FAX：088-821-4725 E-Mail：310601@ken.pref.kochi.lg.jp

